

論文概要

東京医療保健大学

医療情報学科

HI015013

長部 莉那

一般に公開された市町村ならびに医療関連データを用いた 医療サービスに関する研究

地域医療の基本方針となる医療計画に盛り込むべき疾病として「五大疾病」が指定されている。「五大疾病」とは、癌、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患のことである。医療サービスを適切に提供するために、医療圏が設置されている。医療圏とは地域の実情に応じて医療サービスを提供する体制を確保するために、都道府県が設定する地域単位のことである。医療圏は大きく一次医療圏、二次医療圏、三次医療圏の3つに分類される。

現在、医療資源の地域格差が問題となり地域間での人口に対する医師数のアンバランスが発生している。医師の偏在は、地域における医療サービス提供力の格差を生む。地域によっては、高齢者の増加、財政の縮小、人手不足が進み、低負担で高品質な医療サービスの提供力をいつまでも続けることが困難となっている。

こうした状況から、各医療圏における患者の分布の様子はどうなっているのか、それに対する医師は足りているのか、などを調査しようと考えた。また、もし医療圏ごとに医療サービスのアンバランスが起きているのであれば、どうして起きているのか、その原因を探ってみようと考えた。

そこで、本研究ではインターネット上に公開されている市町村ならびに医療保健関連データを用いて、二次医療圏における医療サービスの提供状況を各医療圏の疾病の状況を考慮して考察することを試みた。

結果として、日本の医療サービスは「西高東低」であるかもしれないという結論にたどり着いた。今後、どのようにしていくべきか提案を挙げるとするならば、人口を分散するために地方分権を実施する。その結果、各地域の交通網が整備され患者の移動がスムーズになり医療資源の共有が進み、どの医療圏の患者にも均等に医療サービスが提供されるようになるのではないかと考えた。

目次

第1章	はじめに	P1
第2章	研究背景	P2
第3章	研究方法	P3
第4章	研究結果	P4
4.1	分析データの概要	P4
4.2	五大疾病について	P4
4.3	流入・流出について	P8
4.4	人口10万人あたりの病院数.医師数	P10
第5章	考察	P14
5.1	各データの考察	P14
5.2	考察からみえた背景	P14
第6章	まとめ	P15
	謝辞	P16
	参考文献	P17